学校図書館を活用した「読み」を鍛える拠点校事業　実践記録

研　究　主　題
「学びに向かう力」と「伝える力」の育成
～主体的・対話的で深い学びのある授業の創造～

高知市立城東中学校

実践概要：
２年間の指定を受けて，「学校図書館を活用した『読み』を鍛える拠点校事業」に取り組んできた。１年目は，協働による授業づくり（教科会での単元計画の作成，プレ授業・公開授業の実施等）を推進しながら，各教科等における「言語能力」「情報活用能力」を全体で共有することで，教科を横断した「読み」を鍛える授業づくりへと進めてきた。教科会等で，目的意識・相手意識を明確にした言語活動について協議し，公開授業において，各教科等における「読み」を鍛える授業を提案することができた。２年目は，１年目の実践を引き継ぎながら，新たに学力向上経営戦略会議を開催し，学力向上対策と授業改善対策について，カリキュラム・マネジメントの視点を生かした「学校経営戦略マンダラート」を作成し，これをもとにＰＤＣＡを回しながら，目標達成に努めてきた。
キーワード：　言語活動の充実，情報活用能力の育成，図書館資料の活用，授業改善

１．研究仮説

一人一人の学習状況等を分析・把握し，個に応じた指導やアクティブ・ラーニングの視点に立った探究的な学習を行い，仲間とかかわり，深く考えながら課題を解決していく活動を取り入れることで，深い学びのある授業が実現できると考える。更に，図書館資料等を活用し，情報を収集し，整理する活動を積み重ねることで，「読み」の力の基礎となる「語彙力」「思考力」が培われ，相手意識に立った「表現力」も高まるのではないかと考えている。

こうした「主体的・対話的で深い学びのある授業の創造」を意図的・計画的・系統的に設定していくことで，本校の課題である「学力」と「表現力」の更なる向上が図れるであろう。

２．実践方法

⑴　各教科及び総合的な学習の時間等における「主体的・対話的で深い学び」のある授業の実施
　①　授業改善プランに基づく取組の充実
　②　「城東スタンダード」による日常的な授業実践の徹底
　③　各教科等で，目的に応じて資料を読み取り，それらを用いて思考する授業の実施
　④　定期的な教科会の充実
　⑤　全員が一回以上の公開授業の実施
　⑥　指導主事等と協働した「城東授業プラン」の作成
　⑦　研究授業に指導主事等を招聘
　⑧　各教科での「タテ持ち」授業の実施
　⑨　取組の検証と改善

⑵　図書館資料や新聞活用を通して言語活動の充実を図り，生徒の思考力･判断力・表現力，情報活用能力，問題解決能力等を育む研究
　①　「学校図書館」を位置付けた全体計画の見直しと実施
　②　各教科等で図書館資料や新聞等を活用し，言語活動の充実を目指した授業づくりの実施
　③　「学習・情報センター」として，生徒の自発的・主体的な学習活動を支援する場となるよう学校図書館を活用する授業の実施
　④　小中連携において学び方や，発表の仕方などについての共通理解
　⑤　年１回以上学校図書館活用型の公開授業の実施
　⑥　各学習シート（県発行）等の活用
　⑦　取組の検証と改善

⑶　授業における「対話的な学び」の充実，良好な人間関係づくりや集団づくりへの支援，総合的な学習の時間における「まとめ・表現」活動の充実，全校集会などにおける生徒の発表活動等の充実を図り，生徒の「表現力」を高める研究
　①　表現力アンケートの開発と実施・分析
　②　授業アンケートの開発と実施・分析
　③　総合的な学習の時間の年間計画の見直し
　④　全体計画の見直しと再構築
　⑤　パフォーマンス評価の充実
　⑥　取組の検証と改善

３．実践内容

【研究の始まり】

研究を始めるにあたって，小笠原哲司高知市教育委員会学力向上推進員をお招きして「『読み』を鍛える」ための実践研究の充実に向けて研修を行った。

まず，「研究の方向性の共有」としては，「『読み』を鍛えること」の共通理解を図ることとして，「語彙力」「言語活動の充実」「情報活用に関する指導の充実」が挙げられた。また，「実現すべき授業の明確化」のためには，教科会を充実し，そのなかで現行の学習指導要領と新学習指導要領を活用した授業構成を考えていくことが重要であるということを確認し，教職員の意思統一を図った。

⑴ 「主体的・対話的で深い学び」のある授業

○「読み」を鍛える授業の具体化

・各教科で，協働して教材研究を行い，目的意識・相手意識をもって取り組める学習活動を設定し，その効果を検証した。

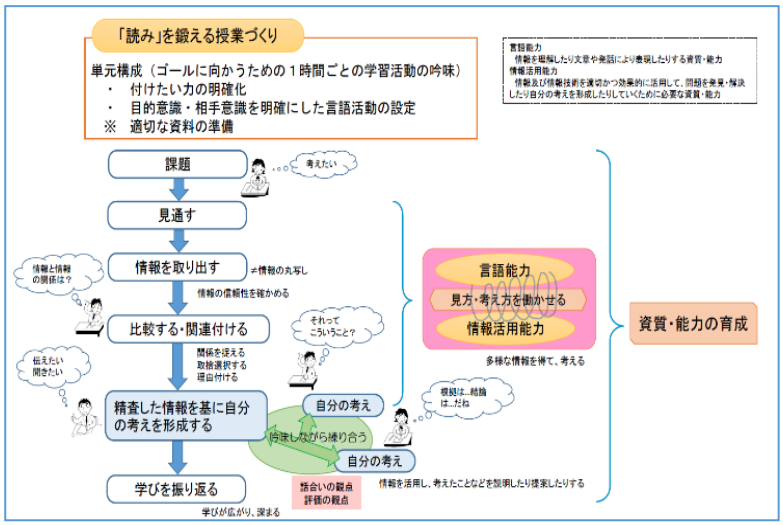
・各教科等における「読み」を鍛える授業づくりの提案となるよう，学習指導案に学校図書館等の活用，言語能力の育成，情報活用能力の育成の３つを明確に位置付けた。

・学習・情報センターとしての学校図書館の機能の充実を図った。

○取組のＰＤＣＡサイクル化

・学力向上推進室による取組への価値付けを踏まえ，研究推進委員会で公開授業の成果・課題を整理し，次の授業へとつなげていくことにより，本校としての「読み」を鍛える授業づくりを深化させていった。

・「読み」を鍛える授業のイメージ図を作成し，共有した。（図１）



（図１：「読み」を鍛える授業イメージ図）

⑵ 図書館資料や新聞活用を通して言語活動の充実を図り，生徒の思考力･表現力，情報活用能力，問題解決能力等を育む研究

<u>各教科の公開授業（例）</u>

① １年国語科 「城東情報局『うまい高知を発信しよう』～構成を工夫して効果的に伝わるように書く～」

・自分が紹介するお土産について，学校図書館の資料等を使って，情報を集める。
（学校図書館等の活用）

・集めた情報を関連付けて，自分が伝えたいことを決める。（情報活用能力）

・とさテラスに飾るという目標に向かって，目的と対象を意識しながら言葉を選んでいくという有意義な言語活動を行う。
（言語能力）

（写真１：とさテラスに掲示した紹介文）

② ２年理科 「なぜ，パンダは肉食なのにササを食べているのかを調べよう。」

・幾つかの共通点や相違点を基に分類表を作成し，その表を用いて，未知の動物がどの仲間に分類できるかを考える。
→動物を分類するための観点を選び，判断する力（情報活用能力）
→動物を分類する方法や分類の結果を説明する力（言語能力）

・ジャイアントパンダの特徴について，疑問に思ったことを，図書館資料等を活用して調べる。
→生徒自身が問題を見いだし，自ら進んで探究し，課題を解決する力
（学校図書館等の活用）

③ ２年技術・家庭科（家庭分野）「『土佐どれ食材を使った日常食』を考えよう。」

・高知県の食材について調べたことをもとに「土佐どれ食材を使った日常食」を考える。（学校図書館等の活用）
→調べたことをもとに自分で作った「食材カード」の情報を，取捨選択しながら献立と工夫した点について考える。
（情報活用能力）
→自分が考えた献立と工夫点を説明し合い，良い点や改善点をまとめる。
（言語能力）

④ １年社会科 「律令制のもとでの農民と貴族の暮らしを説明してみよう。」

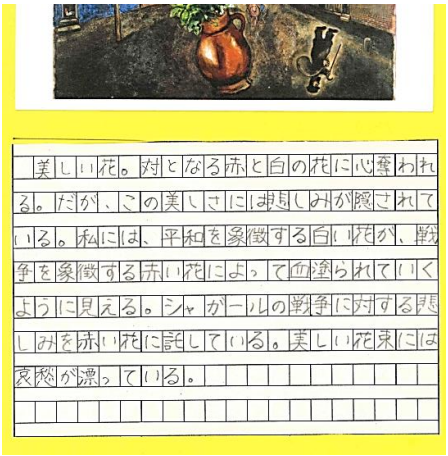
・資料から，律令制のもとでの農民と貴族・朝廷の関係を説明する。
（学校図書館等の活用・言語能力）

・説明の根拠について，資料から情報を取捨選択し，論理的に説明する。
（情報活用能力）

⑤ １年国語科「美術館に輝く私の鑑賞文」

・高知県立美術館にあるシャガールの絵画の鑑賞文を書き，自分らしいものの見方を相手に伝えるという目的をもって，語句を吟味することで語彙を豊かにする。
（言語能力）

・短い文章にまとめるように設定し，自分の伝えたいことを根拠として，図書館資料や学芸員から得た絵画に関する情報の中で何を選択すればより伝わるかを思考し判断する。（学校図書館の活用・情報活用能力）



（写真２：シャガールの絵画の鑑賞文）

⑶　授業における「対話的な学び」の充実，良好な人間関係づくりや集団づくりへの支援，総合的な学習の時間における「まとめ・表現」活動の充実，全校集会などにおける発表活動等の充実を図り，生徒の「表現力」を高める研究

「総合的な学習の時間」公開授業

①　１年総合的な学習の時間

「ＪＵＭＰ（城東地区をよくするための提案）を発信しよう。」

・城東地区に対するイメージを友達と比較し，「城東ならではといえば？」を考え，課題を設定し，調査方法を検討する。（学校図書館等の活用）

・城東地区を探索し，人・ものとの出会いを通して情報を収集する。

・仮説に合った情報を選び，整理・分析し，城東地区をよりよくするための提案(JUMP)について考える。

→教科等で学んだ資質・能力を生かし，地域のよさや問題点を整理したり分析したりする。（情報活用能力）

・整理・分析したことを基に，調査内容をＪＵＭＰにまとめる。

→自分たちが調査し，分析した内容を原因や根拠を示しながら発表する。（パワーポイントを使ってのプレゼンテーション）（情報活用能力・言語能力）

②　２年総合的な学習の時間

「新聞づくりに向けて，職場体験から見えてきたことを記事にしよう。」

・職場体験で得た多様な情報を取捨選択しながら整理し，新聞づくりに向けて，分類・細分化し，他者に伝わりやすくするために「見出し」を考えたり，記事を考えたりする。（情報活用能力）

・新聞という形にまとめ，自己の「働くということ」についての考えをアピールする。（言語能力）

また，生徒の表現力を高めるための取組として，各教科等の授業においても，振り返りやまとめでの発表活動を取り入れてきた。

２年生は，学年行事である「立志式」において，自分の考えを学年と保護者の前で一人一人堂々と発表することができた。

【研究の深まり】

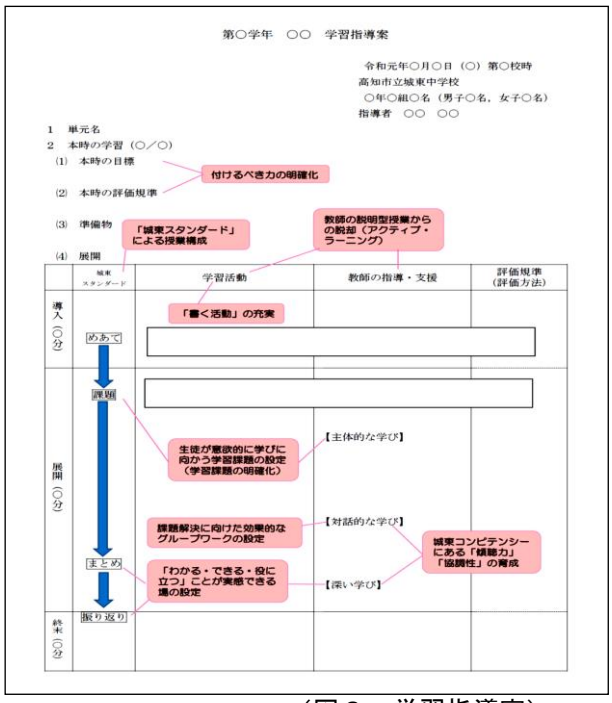
⑴　令和元年度には，学力向上対策と授業改善対策について，マンダラートを活用して学力向上経営戦略会議（図２）を実施した。戦略会議の結果を，具体的な取り組みの内容として整理し全体で共有して，実践していくこととした。

更に，７月にＣＡ（チェック・アクション）会議を行い，２学期の重点項目として「学力向上」では課題を明確にし，「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」を確実に実施すること。「表現力向上」では，生徒の表現の場を意図的に多く設定し，よい表現モデルイメージを共有すること。「授業力向上」では，レベルを下げるのではなく，思考力や達成状況を見られる適切な問題を作成することを設定した。この重点項目を，学校全体であるいは個人で意識し，実践をしていくことで，生徒の学力，表現力の向上を目指していくこととした。

（図２：経営戦略会議）

⑵　学習指導案「『学びに向かう力』と『伝える力』を育成する授業プラン」（図３）

マンダラートに示した戦略を実践し，「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の各過程の学習活動を意図的・計画的に位置付け，学びの質を高めるために，学習指導案の形式を工夫，開発した。



（図３：学習指導案）

⑶　アンケートの開発・実施

①授業アンケート　　②表現力アンケート

学習の振り返り	
1	学力を高めるために，授業に積極的に取り組んだり，計画的に家庭学習を進めたりしている。
2	先生は，見通しをもって意欲的に学習に取り組める「めあて」や課題を示してくれている。
3	授業には，自分の考えを深めたり，広げたりする話し合いの場面がある。
4	授業で学んだこと(方法等)が，他の学習や普段の生活でも使えるような場面がある。
5	振り返り(分かったこと・できるようになったこと・さらに考えたいこと等)を自分の言葉で表現する場面がある。
6	授業では，図書館資料や新聞，ICT等を使って調べたり，話し合ったりする活動を行う場面がある。
7	黒板の文字が読みやすく，一時間の流れをわかりやすくまとめてくれている。
8	先生は，自分たちの発言や活動などに対して，ほめたり，適切にアドバイスしたりしてくれている。

振り返り	
1	友達と話し合うとき，友達の話や意見を最後まで聞くことができる。
2	人の話を聞くとき，相づちを打ったり，うなずいたりしながら聞くことができる。
3	友達の前で自分の意見や考えを発表することは得意である。
4	聞き手に伝わる声の大きさや，適切な速さで話すことができる。
5	意見などを発表するとき，うまく伝わるような話の組み立てを工夫している。
6	自分の考えを他人に説明したり，文章に書いたりすることができる。
7	友達に自分の思いをうまく伝えることができる。
8	相手や場面，状況に応じて適切に，敬語を使って話すことができる。

「主体的・対話的で深い学び」のある授業の実践

○学力向上推進室の訪問を受け，教科会等で，目的意識・相手意識を明確にした言語活動について協議し，公開授業において，各教科等における「読み」を鍛える授業（「言語能力」「情報活用能力」を育成する授業）を提案することができた。
○単元のゴールイメージを共有するための工夫（モデル例の提示・動画の視聴等），情報の関係を捉えさせるための工夫（付箋の活用等）など，教科を超えてよさを学び合うことができた。
○城東スタンダード（「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」）による授業を構成し，自分の考えを表現する活動を工夫することができてきた。
▲課題の設定が十分とは言えず，学習活動が「学びに向かう力」と「伝える力」の向上に効果的につながるものになっていない。
▲授業改善に努めているが，「わかる・できる・使える・役に立つ」を実感する場面までを一単位時間内に実践することができておらず，学力の定着につながっていない。

図書館資料や新聞活用を通して言語活動の充実を図り，生徒の思考力，情報活用能力，問題解決能力等を育む研究

○各教科等における図書館資料等を活用した授業では，課題解決のために適切な図書館資料が準備され，単元のゴールを達成するために効果的に機能していた。
○「『読み』を鍛える」とは何か，ということを全員が考え，同じベクトルで研究を進め公開授業を実施してきたことで，改善点を次につなぐことができ，授業改善が図れた。
▲情報の関係を捉え，取捨選択する力は徐々に高まってきているが，自分の考えを交流する場面で，情報を吟味しながら練り合うことができていない。
▲学校図書館の整備がまだ十分でなく，比較検討するには資料が少ない。

生徒の「表現力」を高める研究

○中堅教員を中心に，「総合的な学習の時間」を核にしたカリキュラム開発を行うための「城東探究プロジェクト（仮）」を立ち上げた。
○「表現力アンケート」と「授業アンケート」を開発し，実施することで，現状の把握ができ，改善策に取り組めるようになった。
▲７月に行った「表現力アンケート」の結果を見ると，項目３・項目４・項目５の質問に対しての肯定的評価が低く，自分の意見や考えをうまく伝えることができない生徒の姿が見えてきた。
　⇒　年度末総合肯定的評価 80%
▲「授業アンケート」では，項目４・項目５の肯定的評価が低く，「城東スタンダード」での「まとめ」「振り返り」における「わかる・できる・使える・役に立つ」が実感できる授業の実現が不十分であることが明らかになった。
　⇒　年度末総合肯定的評価 90%

高知県学力定着状況調査結果
県との比較（前年度）

正答率が，高知県平均より高くなっているのは，１年国語のみとなっているが，昨年度の結果と比較して考えると，すべての教科で向上している。今後，取組を進めることで，さらなる伸びを期待している。

課題を踏まえた改善策（今後の取組）

・カリキュラム・マネジメントの視点で，教科等横断的な年間指導計画を新たに作成する。
・各単元において，目的意識・相手意識をもって，情報を精査し，自分の考えを形成する力を育成する学習活動を構成する。
・「城東スタンダード」による授業を確実に行い，「伝える力」を付けるために，授業の中で，話し合ったり，発表したりする活動を意図的に設定し，「インプット」したことを「アウトプット」させることで，「記憶に残る学び」につなげていく。
・各教科等の力を育成するために，学校図書館や電子黒板型プロジェクターを活用することで，効果的な活用方法を研究する。
・「城東スタンダード」による，授業の流れ・思考の流れがわかる構造的な板書を行い，記録を残し検証していくことで，授業改善につなげていく。
・教科会等で，思考力や達成状況を的確に見取れる適切な問題作成に取り組む。
・「生徒一人一人の学力を保障する」という学校教育の原点に立ち返り，中間テストは実施せず，小単元の「ハードルクリアテスト（仮称）」を短いスパンで繰り返し実施することで，生徒の学力保障，学力向上につなげていく。
・現在実施している学力向上のための取組について，全校をあげて見直し，効果につながる実践を行い，ＰＤＣＡを回していく。家庭学習・夕自習の内容，実施方法の工夫・改善に努める。